

# CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2009年3月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



## 感情の論理 vol.25 「春期恒例?実践編」

今回は、春期恒例の?の実践編です。

以前私が経営していて、譲渡した教室の経営者から相談を受け、塾の改革に乗り出しました。その内容は、それまでの1対4の個別指導から、ベリタス・アカデミーとサナルが開発した個別パートナーを中心とした映像教材を駆使した自立型の指導に転換することです。

まさに、塾の大改革をしようというのです。それに伴い、既塾生とその保護者に対して「説明会」をするということで、その経営者が案内を作成しました。本人の了解を得て、「悪い見本」?として紹介します。(右記参照)

表題が「カリキュラム変更のお知らせ」にも関わらず、最も大切なカリキュラム変更の内容が全く分かりません。(ここでは割愛していますが、「別紙」を読んでもよく分からないのです。)

それどころか、表題とは関係のない理念の話が延々と続きます。挙句の果てに?「生徒一人ひとりが『生きる力』=『自ら学びとる力』を一層身に付けるために」という理由で、突然、「カリキュラムを変更します」と宣言する始末。いわゆる美辞麗句が並んでいるだけで、全く説得力のない文章になっています。

実は、多くの塾さんが同じような文章を書いています。これでは「カリキュラム変更」に伴う期待感やワクワク感が伝わりません。それどころか、最後まで注意深く読んでもらえるかも疑問です。

仕方なく?私が見本を作ってみました。全文は長いので、今回は「表題」だけをご紹介します。コレです。

### 重要なお知らせ-塾革命を起こします-

いかがでしょうか。前述の「カリキュラム変更のお知らせ」と比べて下さい。表題を見ただけで、惹き付けられるものがあるのではないのでしょうか。また、重要なお知らせならば、「重要なお知らせ」と表記した方が読者も覚悟して?読んでもらえるようになります。

塾生のみなさん、保護者各位

### カリキュラム変更のお知らせ

日頃は〇〇学園の指導にご理解をいただき、ありがとうございます。〇〇学園は単に「成績」だけを追求する指導ではなく、「勉強する」目的を「生きる力」=「自ら学びとる力」を身につけることと捉え、その結果としての「成績」を追求しています。

また、テストは「個人の現在の実力を測り、自分を次の段階へと向上させるための指針」であり、「テストのために勉強するのではなく、勉強するためにテストはある。」ものと位置づけて指導しています。テストに向けて「目標」を掲げ、「計画」を立てて「行動」する。「結果」をしっかりと「反省」し、次なる「目標」と「計画」を立てる。この繰り返しにより、成績ばかりでなく、自分自身を向上させることができるからです。

〇〇学園では、それを実践するために、中学生全員に、定期テスト毎「目標達成宣言」を行っています。ひとりひとりが自分なりに次のテストの目標を設定し、それを教室に貼り出しています。「目標達成宣言」は生徒ひとりひとりの学力向上、人間性の向上のために、当塾においては、必要不可欠のものとなっています。〇〇学園は、その生徒一人ひとりが「生きる力」=「自ら学びとる力」を一層身に付けるために、平成21年4月度よりカリキュラムを別紙の通り、変更します。

しかし、どうしても紙面ではお伝えしきれない部分があります。3月15日(日)午前10時より説明会を開きますので、ぜひご参加ください。当日ご都合が悪い方には個別にご説明します。

生徒一人ひとりを大切の考えた上での今回のカリキュラム変更です。趣旨をご理解の上、今後ともよろしくお願ひします。

平成21年2月20日

〇〇学園

塾長 〇川〇久

「感情の論理」とは、同じことを伝えるのなら、それを早く正確に伝える技術のことです。今回の案内の場合、保護者に興味を持って読んでいただかなければ、その内容が伝わりません。キャッチコピー(表題)は、そのために重要なのです。本文に関しては次回、詳しく解説します。

2008年3月に告示された新学習指導要領。それに伴い、2009年度より移行措置が実施されます。「変わる」「新しくなる」と、連日さまざまなメディアを通して、情報が伝えられていますが、良く分からない・・・結局、何がどうなるのか、どう勉強したらいいのかと悩んでいる方も多いのではないのでしょうか。そこで、主要5教科の改訂ポイントを絞り込んで、シンプルにまとめてみました。ご参考にしていただければ幸いです。まず、今回の指導要領改訂によって大きく変わるようになった「算数・数学」です。

## 1. 算数的・数学的活動

最も大きい変化は、言葉や数・式・図などを使って説明するといった「算数・数学的活動」が、今回初めて、指導領域として、分けて示されたことです。学習指導要領の「目標」も、「算数的活動を通して」(小学校)、「数学的活動を通して」(中学校)という言葉から始まります。これは、得た知識を活用することと、それによって知識を持つことの意味を知ること、そしてそれらによって新しい知識を得ようとする意欲を育てることを目的としているからです。

たとえば「三角形の内角の和は180度」を教え、次に「四角形の内角の和は360度」と教えるのが従来の指導でした。しかし今回の改訂によって、「三角形の内角の和は180度」を学習した子どもに、『では、四角形の内角の和はいくらになるか。またその求め方を、言葉や数・式を使って考えてみよう』と課題を与え、子どもに考えさせる指導に変わるかもしれません。

もう一つの新しい部分と言えるのは、小学1年生から「面積・体積の大きさの比較」といった「数量関係」、中学校で「資料の活用」を加えたことです。これも、実生活で「算数的・数学的活動」を実践するために、重要視している部分といえるでしょう。

そして、今回最も重要視されるべき点が、「反復(スパイラル)」です。

## 2. スパイラル(反復)

「知識を使う力」を高めるためには、「知識」をきちんと身につけることが大前提になります。「知識」を身につけることをおこなっているのは、

「知識を使う力」が高まるはずもありません。現行課程と新課程とを見比べてみると、具体的に習得すべき「知識」が増えていることがわかります。

新課程までの移行措置期間で、「学習内容の前倒し実施」が行われるのは、「知識」を身につけさせることを重要視しているためです。これは、各学年で深く習っていく「反復(スパイラル)指導」を行うことで、小学校低学年から、中学3年生までの間に、基礎的・基本的な知識を確実に定着させるためであり、「学び直し」の機会を多く持つためです。すでに学習した内容を、再度取り上げることは、学習内容のつながりを子ども達に感じさせ、知的好奇心・関心を誘う狙いもあるのかもしれませんが。

以上のように、今回初めて指導内容として示された「算数・数学的活動」とおして「知識」の定着をはかることと、必要な「知識」を定着させる「反復(スパイラル)指導」が、算数・数学の改訂ポイントとなります。

## 3. 今年、移行措置に関係する学年は？

今年の春から、実施される移行措置。学年によっては関係のない学年と、大いに関係のある学年があります。平成21年度の「算数・数学」の移行措置に関して、下記に箇条書きにしましたので、ご覧ください。

### 平成21年度 学年別・移行措置対象の有無と内容

<小学生>		<中学生>	
1年生 追加:○	削除:×	1年生 追加:○	削除:○
2年生 追加:○	削除:×	2年生 追加:×	削除:○
3年生 追加:○	削除:×	3年生 追加:—	削除:—
4年生 追加:○	削除:×	※移行措置に伴う追加・削除がある	
5年生 追加:○	削除:×	場合は、○印を、追加・削除がない場	
6年生 追加:○	削除:×	合は、×印を記載しています。	

## 4. 他教科について

以上のように「算数・数学」だけでも、さまざまな改訂が行われています。当然、他の4教科についても、さまざまな改訂ポイントがあります。そちらについても、ご覧になりたい方は、下記URLをクリックしてください。

今回ご案内した「算数・数学」の改訂ポイントに加え、他4教科のポイントについても記載されたPDFデータを、ダウンロードしていただけます。

<新「学習指導要領」ポイント解説>PDFダウンロード

<http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/text/2009ikousochi.pdf>